

手堅善後之信長及伊代ももるる處と
風波を伊代を大垣の城に新築伊入
竊り此志願まり新成時く此陣を
まりりと見え申し事

一 至事も昭布れも天正十一年未の四月
十七日より伊舎身英信を後より榎井
左衛門中下姓元伊代役より大垣に
系若公柴田修理率大軍を率一
志願くた事と申向の中は柴田先手を

おいの信之間言蕃徳山五玄傍茶田又左衛門
く能之人と見え申し系以迄よりもともや
何事も作説と申上り候事此節柴田
可出やと兼く此覺悟なり候く
岐阜迄是中人数まゝいふ世路に有子
此節請たかく候く新信舟より半ハ
此度の事を免とく中何人日岐阜より
大垣に伊引舟に数人敷陳山と有る由より
高聲をり停止とて物取くより望く

彌よ大垣に直下し給るるに海邊毎に
志津賀嶽を公掛よと堅江佐舟は少も
十九日此水城に成舟出志門うたけ
へこ舟馬をもやめら進く事

一 道くの在る所く此庄至大百姓をも
新石寄花を開きめと鏡きよ馬の
もこよと合れろふせよ先手く子持
るたし形この氣を牛一越せよ氣の
算用八百姓もく自分の氣をく十

きくともふよく後不可成者也い
くくし舟自身は彌はめし出れりし
と泣きさたりしとふともよお
たりしとたれよきり阿多内人
をひよく志めし食をひよめし
牛馬より舟させ志門うた舟を
可乘なり合ぬらふは本の枝うか
と志新しふ舟をよ泣より人
弟外たふその多く可有なり是

食少くは可素くと云ふはさよ実女皆
 之う忍死そのまゝ可忍者也といはる
 者あるや〜ハきき〜せよき難きの
 下は色く〜のこひさ〜もはつ〜と
 惟く可忍とおし〜〜〜
 能さいと難食も先へお尋りなを皆角
 下可立也志難〜の何るたり〜と食
 何〜おのい〜は者何〜ハ是ハ佛馬の合
 ぬう〜はう佛用〜可進〜と是も可

お渡もの也如伝道〜もてさ〜又ハ
 一〜ハ中もの教と志〜也佛意
 一〜通〜まかをお渡中半

一 道中ノ教ヲ能ハお〜的をの何りさし
 物のきぬ志何り是中ハ如此ハ昨日夜
 入志何〜だ希山下ハ水〜まきれは成
 所入〜経さ〜や出分〜此城内中川
 願会傍立〜中城修之間玄蕃切崩中
 則激玄衝 討死との経進さり被城子

馬上二百六十騎都合、生勢二、五年
あり、無勢、生討、果、是、多、く、柴田方、毛
手負、死、人数、を、法、く、一、中、以、と、算、え
中、く、年、

一、
一、隣、此、百姓、と、も、生、呼、出、以、中、の、陣、迄
の、半、子、の、間、陣、迄、の、以、身、生、死、也、尋、也、一、
一、く、不、加、く、と、中、上、さ、く、ハ、さ、ん、一、案、内
よ、く、知、く、一、生、死、者、と、あ、ん、ぢ、不、可、計、也
於、と、生、位、金、一、枚、生、死、以、無、難、疾、り、く、く、

又二枚、可、生、死、以、此、者、と、石、法、是、柴田
又、左、方、の、及、陣、一、紛、入、よ、と、法、意、く、ハ、大、形
山、を、法、く、く、り、糸、以、く、ん、と、生、死、中、法、と、生、死
柴田、又、左、方、の、及、一、生、死、以、者、木、子、孫、是、是、ま、く
糸、以、く、人、数、を、生、死、引、計、く、と、毎、大、数、を、生、
一、く、法、と、可、中、以、火、多、く、身、を、え、く、く、法、日、の
合、戦、と、可、生、死、以、合、戦、一、生、死、以、く、と、
裏、切、者、形、度、者、な、く、一、と、も、兼、く、く、り、以、心
中、な、く、通、を、志、法、く、裏、切、者、生、死

万葉の合戦より此加まの事と事表切
 同宗との争い留まは公將可成と位
 是に又左馬の及より其扱を加や野を
 表り孫孫成治若く或は毎火事お公に
 中は如所意裏切を可成成治免以外
 間如何と存は昭々し合戦於るに
 如は指馬の双方へかまひ中万葉作との
 又左馬の及より此及よりとお笑へ中
 一 稍多く所人数も大形は引射るに

此ありき一物以下かきりよよ出ま
 下く此者へ毎火と所く一人く毎火
 三つ所く焼せよと位位射のかま
 たくさんさ歌を中く所より遊意い
 日登此こくこのありき一物も歌陳より
 くとりさゆふ見とくは地きやうと事
 けさやうふん名中の秀吉山きり
 此系廻自然夜討もや可有かと思
 所と所後定三ヶ所計に銃砲弓所張

如し如き通よりおし所へ至るは其後
 所よりの使者様井左若ハ侍りきりある哉
 況是之系之との侍意たり即御前へ
 祇儀以て方馬いりし侍意之関ヶ原
 より系殺中作と中上の侍意よりハ如地
 ころやとの侍意之侍意通加地
 若若の如地中上の侍意より道中
 公小際さるる念の粟毛の菊頼いり
 侍りたる哉況と至る侍意よりハ一信と

蓬者仕の如しも系外不中の是は其後と
 中上の侍意若りとの侍意より
 して即侍馬持領仕具足より物以下ハ
 侍尋所り具足より別系と中上の侍
 一 此様井左若ハ右子ハ秀若侍を
 のこ小姓よりせうれの時より侍意公
 仕より侍見及至る舎才其後
 至進了時と此言系より若りせうれ
 彼より覺悟し秀若より見及如や

自然之軍に對し快お紙さすもさし
 是にくき軍もさあし物さるし使の時
 此左將を使しせしれよし此を業を
 是は遠にたる仁もくは右に左將を
 より此はあし子大垣にも業は左將に
 思定中將は秘藏し馬を下の陣に此云
 業將念入中軍をさかしく肝子女は
 さはと事なは明日は合戦討死と定め
 人さし此武をんもくはさし

ま門先世もやとなきたむ新軍

一 夜も明るれと款味方の陣をわら渡り
 合戦の人数とんとさしりんをさしりされ共
 柴甲方をさしりみくお路し可掛共不見
 候し童子秀吉は陣より攻め上をさしりと
 見の中將と到しし七本槍の流し回勢分
 毛二町計ま門先は進まぬとさしり秀吉
 所候はし所高見下將とさしり中は山
 下へ七人の流きとさしり福嶋大吏は

とや預を死中に終とあり所入依
きまう柴田方の人数を引よ中いと笑へ
中依秀吉と七人元との間の傳人ともや
引能款とあ立進上山に次来く子諸より
山よりくもこの戦より門をきれつ暫の勝
負とあより修之間玄蕃傳人と切能をれ分
勝家敗軍に依久留言蕃を勝家と一所に
不依退左の山にれをさる子ころははるへ
退中作有く七本能は能くは能くは

左右を款の間とさけきみ中とある山の
手は左へ射す所款迎と左山のまうなる
所とをよりいよと味方の陣より見中と
上より能く胸板をたうれ六七ををた
とくされもや討死とくおくと見ふ
あより立より又本は道と死よるを能とお
見終子金に大半月の死終れおもお是
死終れおもお一は入きと見は半月のおれ
と終れ入るるおとくとけりるを子

たり一免おほなるもの多く持たる港を石井とし
 しく一う又石港をとりこを断より又十四五
 町をもよると見えんをた刀此のたひうと見え
 作と味方見揚の交子預をとり所若と石出の
 所威不斜一う二万石ととと石港よりと所意
 あり英法中後より二萬石石合五万石ととく
 此港の子今至て名の多く見え中奉ハ七本
 港と中たうと一ハ七本港の元ハ一と付二子石
 泉元をい右ハ七人者二百石の知行と安中ハ

此加増二子石泉之在右ハ二季後病死也

一 柴田及旗本殿並に上々思ひくよ備へと
 引籠下く弓手ゆくのさく山古押多
 ちけいぬと建とも名を井一む侍とも主と
 見えたり一と目子掛谷をとくり子殿おを
 直討切きく敷とを法と安中ハ秀右
 婦くをとも柴田殿と百由くく石中ハ如子
 柴田殿と立中一めん一やうが女勝家へ
 中上様子殿茶室馬衣もや福由く見

中に加振さうし勝心許子は自害を疑ふ事
 難成見を中し勝心許子を一先何とせし成
 此く庄の勝城と可成勝心許入はたうし馬
 印勝幣と私頂戴可仕は是子立道と下
 しく我お討死可仕はも間子少成と此のい
 可成成はと中し成よ今少討退きしくそ
 まより又三町計も退くへささや法より
 款急きささひか新と見及く成と後ハ頼り
 勝幣可成下はと事急と中し成と成るされを

方とさうし此殊家返事也少介勝幣
 と裁それより勝家馬の先と二町計馬
 をささやむ新ささ振子ハさ成へのく侍に
 言葉成さ事急乃侍中へ勝幣と成
 下し勝意ハ侍と成新ささり勝幣成を
 成るささは殊家留りと討死さ新と成
 かさきさ成ささハ無さ右押懸る成さ成
 勝意也志れ侍とさ成れよと言葉とさ成
 今中しも日以写の懸侍ハ常しく成成